



メルセデス AMG GT 4ドアクーペ特別仕様車

AMG

Press Information

2023年1月11日

メルセデス AMG GT 63 S E PERFORMANCE F1 Edition を発表

- ・ F1テクノロジーを採用した駆動システムを採用
- ・ リアにバッテリーとモーターを搭載したプラグインハイブリッドモデル
- ・ バッテリーを直接冷却し優れた性能を維持
- ・ 全国限定 35 台

メルセデス・ベンツ日本株式会社(社長:上野金太郎、本社:東京都品川区)は、メルセデス AMG GT 4ドアクーペのトップパフォーマンスモデル「メルセデス AMG GT 63 S E PERFORMANCE F1 Edition」(以下、GT 63 S E PERFORMANCE)を発表し、本日より2023年1月25日(水)18:00まで弊社WEBサイトにて仮予約の申込みを受け付けます。なお、販売台数(35台)以上の申込みがあった場合には抽選とさせていただきます。お客様への納車は2月以降順次予定しております。

「メルセデスAMG GT 4ドアクーペ」は、メルセデスAMG社の独自開発による新たなスポーツカーです。メルセデスAMGのアイデンティティである、究極のハイパフォーマンスを持ちながら、官能的なデザインと快適な室内空間および4ドアの利便性を兼ね備えており、パフォーマンスやデザイン性を追求しながらも、日常生活での使い勝手も妥協したくないお客様のご要望に応えるモデルです。

メルセデスAMG GT 63 S E PERFORMANCE F1 Editionの主な特長

F1テクノロジーを採用した駆動システム

GT 63 S E PERFORMANCE の駆動システムは、4.0L V8 ツインターボエンジンに交流同期モーターとAMG 自社開発の高性能バッテリー、それにAMGのパフォーマンス志向連続トルク可変配分四輪駆動システムの4MATIC+を組み合わせたもので、4.0L V8 ツインターボエンジンと電気モーターの組み合わせによりシステム出力 620kW (843PS)、最大システムトルク 1,400N・m 以上を発生します。また、0-100km/h 加速をわずか 2.9 秒、200km/h まで 10 秒未満、最高速度は 315km/h に達します。

出力 150kW(204PS)の交流同期モーターはリアアクスルに搭載されており、電動シフト式 2 速トランスミッションおよび電子制御式リミテッド・スリップ・デフとともにコンパクトなエレクトリックドライブユニット(EDU)にまとめられています。専門的には P3 ハイブリッド(変速機内あるいは変速機よりも下流に電機モーターを置く)と呼ばれるレイアウトです。

軽量の高性能バッテリーもリアアクスル上方に搭載されています。このコンパクトな設計レイアウトには以下のメリットがあります。

- 電気モーターがリアアクスルを直接駆動するため、動力をよりダイレクトにトラクションに変換でき、発進時や加速時、追い越し時などに追加的な加速力（ブースト）を得ることができます。
- 電気モーターのパワーはその性質上、最大トルクが瞬時に立ち上がるため、きわめて俊敏な発進/加速が可能となります。
- 電子制御式リミテッド・スリップ・デフが一体化されているので、後輪左右へも駆動力が適正配分されることから、例えばコーナー出口での再加速時のアジリティがさらに向上したほか、トラクションが確実に確保されるので高い走行安全性も実現しています。
- リアアクスルのスリップ量が増えると、4 輪のトラクションバランスを高めるため、電気モーターの駆動力が必要に応じてフロントホイールにも伝達されます。この作動は、トルク連続可変配分式四輪駆システムがプロペラシャフトとフロントホイールのドライブシャフトを介して機械的に行います。
- EDU をリアアクスルに直接取り付けすることで、車両の前後重量配分とアクスル荷重配分が改善されて、ハンドリング性能の向上に寄与しています。
- 回生ブレーキによる熱エネルギーの回収は、エンジンおよびトランスミッションによる機械損失、油圧損失をシステムとして最小限に抑える AMG のコンセプトにより、きわめて高い効率を実現します。
- リアアクスルの自動変速式 2 速トランスミッションは、俊敏な発進から高速走行時の安定的な連続出力に至るまで、広い範囲をカバーできます。2 速への切り替えは、電気モーターの最高回転数である 1 万 3,500rpm に相当する車速約 140km/h に達するまでの間に、電動アクチュエーターによって行われます。

AMG 高性能バッテリー

AMG ハイパフォーマンスバッテリー (HPB) の開発は、メルセデス AMG ペトロナス F1 チームが使用している F1 ハイブリッドレーシングマシンの、きわめて苛酷な条件下で実証済みの先進テクノロジーを元に進められました。AMG 高性能バッテリーは、高出力を頻繁に繰り返し発生できる能力と軽量構造とを兼ね備えることで、クルマの総合的なパフォーマンスを高めています。さらに、充電速度が速いことと出力密度が高いことも特長で、これによって、アップダウンのあるワインディングを高速走行する場面などでは、上りでただちに 100% のパワーを引き出すことができる一方、下りでは強力な回生ブレーキが実現できます。

連続出力 70kW、最高出力 150kW

GT 63 S E PERFORMANCE に搭載されるハイパフォーマンスバッテリー容量は 6.1kWh で、連続出力 70kW、最高出力 150kW (10 秒間) を発揮します。また、わずか 89kg と軽量であることから、出力密度は 1.7kW/kg と高い値となっています。このバッテリーは、航続距離を最大化することより、速やかな放電と充電を行えることを重点に設計されたものですが、EV 走行可能距離も 12km^{*1} と実用的なレベルを確保しており、例えば深夜や早朝の住宅地などでは静かに排出ガスを出さずに走行することができます。

*1: WLTC モードー充電走行距離

バッテリーセルを直接冷却

この AMG 400V バッテリーが高性能を実現する土台となっているのが、革新的な直接冷却方式です。非導電性の液体をベースとする高度な冷却液を循環させて 560 個のセルすべてを個別に直接冷却する方式を初めて採用し常に最適な作動温度に保たれます。

直接冷却方式を採用するために、厚さわずか数ミリという新しい薄型冷却モジュールを開発しました。約 14L の冷却液を高性能電動ポンプでバッテリーの上から下まで全体に循環させて各セルを冷却するとともに、バッテリーに直接取り付けられた油水熱交換器内も通過します。こうして熱は車載の 2 つの低温(LT)回路の一方に伝えられ、そこからまた車両のフロントにある LT ラジエーターに伝わって、そこで外気中へ放出されます。バッテリー内の熱分布を均一に保つように考えられたシステムです。

その結果、バッテリー温度は充放電の頻度に関係なく、平均 45℃という最適な動作温度範囲内に常に保たれます。高速走行時などバッテリーが高温となる過負荷時には、直接冷却によって温度を下げる保護メカニズムが設けられています。AMG ハイパフォーマンスバッテリーはサーキットでハイブリッドモードによる高速走行を行うなど、加速(バッテリーが放電する)と減速(バッテリーが充電される)が頻繁に発生する場合でも優れた性能を維持します。

出力密度がきわめて高いセルの使用は、有効な直接冷却があつて初めて可能になります。セルを個別に冷却する直接冷却方式により、バッテリーシステムはきわめて小型軽量なものとなりました。さらに軽量かつ強固な衝突構造を備えるアルミニウム製ハウジングを採用したことも、軽量化が実現できた要因のひとつです。この衝撃吸収構造により最高水準の安全性が確保されました。

AMG ダイナミックセレクト

AMG ダイナミックセレクトには「Electric(電動)」、「Comfort」、「Sport」、「Sport+」、「RACE」、「Slippery(滑りやすい)」、「Individual」の 7 つのモードがあり、新しい駆動技術に合わせて精密な設定が施されているため、GT 63 S E PERFORMANCE の特性を効率重視からダイナミックなものまで広い範囲にわたって変化させることができます。ドライブモードによって、駆動システムとトランスミッションのレスポンス、ステアリング特性、サスペンションの減衰特性、サウンドなど、主要なパラメーターが変更されます。モードの選択は、センターコンソールのロッカースイッチまたは AMG ドライブコントロールスイッチで行います。

通常、GT 63 S E PERFORMANCE は、電気モーターが駆動できるだけのバッテリー残量があれば、ドライブモード「Comfort」で静かに発進します(「サイレントモード」)。エンジンスターボタンを押し、コックピットディスプレイには「Ready」のアイコンが現れ、GT 63 S E PERFORMANCE が走行できる状態であることを示します。さらに、室内には AMG ならではのパワフルに響く始動音がスピーカーから流れます。発進可能な状態にあることを音でもフィードバックする機能です。あとはアクセルペダルを軽く踏むだけでクルマは動き始めます。

電気モーターのみで走行する場合は、車速に応じて変化する専用の低周波 AMG サウンドを前後のスピーカーから車外に発することで、GT 63 S E PERFORMANCE が近づいていることを周囲に対して知らせます。室内でもわずかに聞き取れるので、乗員向けのフィードバックにもなります。この AMG サウンドは約 50km/h まで発生し、その後は徐々に音量が小さくなっていきます。

50km/h 以上では、センターコンソールまたはステアリングホイールのサウンドボタン(周波数の波形記号が表示されたボタン)により、「バランス」と「パワフル」の 2 種類

のサウンドエクスペリエンスを選択できます。エンジンが始動すると、すでに選択している設定に応じてエグゾーストサウンドが変化します。

- ドライブモード「Electric」: EV の走りに焦点を合わせたモードです。発進から 130km/h まで電気モーターのみでの走行が可能で、エンジンはその間は常に OFF となります。電気モーターは AMG のパフォーマンス志向 4MATIC+のコンポーネントに機械的に接続されていることから、いつでも四輪駆動とすることができます。例えば、後輪が突然大きくスリップすると、電気モーターの動力はプロペラシャフトとドライブシャフトを介して前輪にも伝えられます。バッテリーが消耗してしまった場合や、ドライバーがより大きなパワーを要求する場合には、インテリジェント走行制御により「Comfort」モードに切り替わり、エンジンが始動して駆動力を確保します。
- ドライブモード「Comfort」: 発進は、ほとんどの場合電気モーターで行い、その後はエンジンと電気モーターを状況に応じて使用します。例えば住宅地や都市中心部などを低速で走る場合には EV 走行、郊外道路や高速道路では両方を使用するハイブリッド走行となります。これにより全体としてバランスの取れた、燃費節約型の走りとなります。AMG スピードシフト MCT 9 速トランスミッションが早めにシフトアップを行うセッティングになることもこれに一役買っています。サスペンションとステアリングの設定は快適性を重視した設定です。
- ドライブモード「Sport」: エンジンと電気モーターを使って発進し、その後は状況に応じて両者を組み合わせて使用します。電気モーターはより大きなブースト効果として働きます。アクセルのレスポンスがより俊敏となるほか、シフト時間が短縮され、シフトダウンのタイミングも早まるため、スポーティな乗り味が強調されます。サスペンションとステアリングもよりダイナミックな設定となります。
- ドライブモード「Sport+」: エンジンと電気モーターで発進し、その後は状況に応じて両者を組み合わせて使用します。電気モーターのブースト性能はいっそう高められます。スロットルレスポンスがさらに鋭くなるほか、シフトアップ時には瞬間的にシリンダーを停止する制御によりシフト時間が最適化されるため、きわめてスポーティな特性へと変化します。また、アイドル回転の回転数を高め、より素早い発進を可能にします。サスペンション、ステアリング、パワートレインはいっそうダイナミックな設定となります。
- ドライブモード「RACE」: サーキットできわめてダイナミックな走行を楽しむためのモード。すべての項目がパフォーマンスを最大限に高めるセッティングとなります。発進はエンジンと電気モーターで行い、その後は状況に応じて両者を組み合わせて使用します。強力な加速を行う場合は、電気モーターが最大のブーストパワーを発揮してエンジンを補助します。パワーがあまり必要とされない状況ではバッテリー充電を積極的に行い、利用できる電力量を最大限保ちます。
- ドライブモード「Slippery」: 滑りやすい路面を安全に走れるよう、パワーを落とし、トルクカーブをフラットに保ちます。電気モーターのみでの走行と回生ブレーキ調整はできなくなります。
- ドライブモード「Individual」: ドライブ、トランスミッション、AMG ダイナミクス、サスペンション、ステアリング、エグゾーストシステムの設定を個別に選択して組み合わせることができます。

ハイブリッド駆動は、車両運動特性の制御にも役立っています。いずれかのホイールのスリップが過大に増加すると、ESP®によるブレーキ介入に代えて、電気モーターによるトラクション制御を行います。具体的には、リアのリミテッド・スリップ・デフを介して

後輪に伝達される電気モーターの駆動トルクを制御システムにより低減するもので、このため ESP®の介入は基本的に不要となり、限界付近でようやく介入することになります。ESP の介入を限定的にすることにより、エンジンの出力を絞る制御が最小限となるため、エンジンの高トルクを保ったままのドライビングが可能となります。さらに、ブレーキング時に通常は失われてしまう熱エネルギーを回生してバッテリーを充電することも可能です。

回生ブレーキの強さは 4 段階選択式

高性能バッテリーが直接冷却により約 45℃の最適な温度範囲に常に保たれることで、回生ブレーキについても最適化が可能となりました。通常システムでは、回生ブレーキのレベルが高くなるとバッテリーの温度が大きく上昇することから、回生量を制限しなければならないことが難点となっています。

回生ブレーキは、アクセルから足を離す、すなわちブレーキペダルを踏まない空走状態でスタートします。このときバッテリーが充電されることで大きな制動力が発生し車両は減速できるので、摩擦ブレーキによるブレーキパッドの摩耗が軽減されます。また、回生ブレーキの強さや交通状況によっては、摩擦ブレーキをまったく使わずに制動できる場合もあります。回生ブレーキの強さは 4 段階に分かれており、右側の AMG ドライブコントロールスイッチで切り替えることができます。これは、「Slippery」モード以外のすべてのドライブモードに適用されるもので、選択されているドライブモードに応じて異なる設定でエネルギー回収が行われます。

- レベル 0: エンジンとマニュアルトランスミッションを搭載した従来型の自動車でもクラッチを切った場合と似た反応となります。アクセルを離した際にほぼコーステイング状態で走ります。回生量は非常に少なく、エンジンを停止した状態では、ドライブトレインの摩擦損失を最小限に抑えられます。
- レベル 1: 標準設定。このレベルから回生ブレーキはドライバーにも感じられる程度に行われます。通常のエンジン車でクラッチを繋いだ状態の減速度に相当します。
- レベル 2: さらに強い回生ブレーキ。通常走行時ではほぼブレーキを踏む必要がなくなります。
- レベル 3: エネルギー回収量が最大となります。走行状態によっては、100kW 以上の電力をバッテリーに回収できる場合もあります。
- ドライブモード「RACE」の特別機能: サーキット走行では、最大限にタイムを縮めるために繊細なブレーキングがドライバーに求められます。ドライブモードの「RACE」では、回生ブレーキの強さが自動的にレベル 1 に設定され、限界域においてドライバーがコントロールしやすいブレーキ性能を実現します。

ツインスクロールターボチャージャーを 2 つ搭載した AMG 4.0L V8 ツインターボエンジン

GT 63 S E PERFORMANCE が搭載する AMG 4.0L V8 ツインターボエンジンは、最高出力 470kW(639PS)、最大トルク 900N・m のパワーユニットです。しかも、最大トルクを 2,500~4,500rpm と広い回転域で発生します。こうした特性により、発進時点から 320N・m の最大トルクを発生する電気モーターとの相性抜群なエンジンとなっています。

高出力の実現にも寄与する 2 個のツインスクロールターボチャージャーは、低回転域での最適なレスポンスと、中高回転域での力強いパワーの伸びを両立させています。また、タービンハウジングが 2 つに分割され、並行するフローポートとなっています。これに加えてエグゾーストマニホールドも 2 本に分かれているため、タービンホイールに働く排出ガスの運動量を個別に制御することが可能となっています。一方のエグゾーストマニホールドには、同一シリンダーバンクの 1 番目および 2 番目のシリンダーからの排気が、他方には 3 番目および 4 番目のシリンダーからの排気が、それぞれ

供給されます。これは、シリンダー間の相互干渉を防いでガスサイクルを改善するためのもので、これにより排圧が低減され、排気の抜けが改善されます。

電装品に電力を供給する BSG

BSG(ベルトドリブン・スターター・ジェネレーター)は、ジェネレーターとスターターを1つのモーターに統合したもので、出力は10kW(14PS)となっています。エンジンを始動させるほか、例えば、赤信号停車時に高電圧バッテリーの充電レベルが低電圧の車載電気システムをサポートするのに十分でない場合などに、クライメートコントロールやドライビングライトなどの電装品に対して基本的な電力を供給します。なお、このBSGは400V高電圧電気システムに組み込まれているため、レスポンスがきわめて良好です。

サスペンション: AMG RIDE CONTROL+エアサスペンションを標準装備

AMG RIDE CONTROL+エアサスペンションは、セルフレベリング機構付きマルチチャンバーエアサスペンションをベースに、減衰力特性の調整が可能な電子制御アダプティブダンパーと組み合わせたシステムで、ダンパーにはプレッシャーリリーフバルブを2個採用しています。1つはダンパーの伸び側で発生するリバウンドダンピングを制御するバルブ、もう1つは縮み側で発生するコンプレッションダンピングを制御するバルブです。これにより、ダンパーの伸び側と縮み側をそれぞれ制御することが可能となりました。最小減衰力と最大減衰力の幅を広げ、制御マップの柔軟性をさらに高めることで、快適性を高める一方で、スポーティなドライビングダイナミクスの両立を実現しました。

基本設定はAMGダイナミックセレクトのドライブモードにより選択することが可能で、ボタンを押すだけでハンドリング特性を変更できます。例えば、「Sport+」モードではきわめてダイナミックな設定、「Comfort」モードでは滑らかなクルージング向けの設定となります。これに加え、ドライブモードとは独立したチューニングを3段階で調整できる専用のボタンも設けています。

GT 63 S E PERFORMANCEはこのほか、統合型車両運動特性制御システムのAMGダイナミクスも搭載しています。ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)の制御戦略や、四輪駆動、電子制御式リミテッド・スリップ・デフ(リア)を最適化することで、車両の安定性を損なうことなくアジリティを高めるものです。

AMGダイナミクスで特に注目すべき点は、クルマがどのように反応すべきかを判断する能力を備えていることです。そのためにシステムは、速度や横方向加速度、ステアリングの舵角、ヨーレートなどを検出するセンサーを利用します。高度なフィードフォワード制御を行うことで、ドライバーの入力やセンサーからのデータをもとに、ドライバーが望む車両挙動を先取りします。しかもシステムの介入が乗員に気づかれたり、不快に感じられたりすることはありません。優れたコーナリング性能と最適なトラクション、それに高い安定性を伴う非常に信頼性の高いドライブフィールを得ることができます。

- AMGダイナミクス「ベーシック」は、ドライブモードの「Comfort」と「Electric」に割り当てられるもので、ヨーを強く抑制した、きわめて安定した走りとなります。
- 「アドバンスト」は「Sport」モードで起動し、中立的なバランスが保たれます。ヨー抑制が緩和されるほか、アジリティが強化されることで、ワインディングロードなどでのダイナミックなドライビングをサポートします。

- 「プロ(プロフェッショナル)」は「Sport+」モードの一部で、ダイナミックなドライビングのためのアシストがもっとも強化され、コーナリング時の俊敏性と路面からのフィードバックがさらに高まります。
- 「マスター」は、ドライブモード「RACE」と組み合わせられるもので、サーキットでダイナミズムとドライビングの楽しさを満喫したいというドライバー向けの設定です。基本的にはわずかにオーバーステア傾向となり、よりダイレクトなステアリング、もっともクイックな回頭性といった特性を備えた車両バランスを実現します。これにより、最大限の俊敏性を実現するとともに、走行性能を最大限に引き出します。「マスター」モードを起動するには、センターコンソールの専用ボタンを使って、ESP®を「ESP® SPORT Handling」または「ESP® OFF」に切り替えます。

なお、ドライブモードの「Individual」では、AMG ダイナミクス の 4 レベル(「ベーシック」、「アドバンスト」、「プロ」、「マスター」)をドライバーが自分で選択することが可能です。

AMG カーボンセラミックブレーキ

GT 63 S E PERFORMANCE には、AMG カーボンセラミックブレーキを標準装備しています。キャリパーは前がブロンズカラーの 6 ピストン固定式、後がシングルピストンのフローティング式となっています。高度なドライビングダイナミクスに合わせて変更が加えられたもので、カーボンセラミック製のディスクのサイズが前 420×40mm、後 380×32mm と、ガソリンエンジンのみを搭載したモデルよりも大型化されています。苛酷な使用条件下でのきわめて短い制動距離と最大限の安定性、耐フェード性が特長で、しかも耐摩耗性が高い上、レスポンスにも優れています。さらに、軽量材料を採用することで、バネ下重量も低減されています。快適機能としては、ヒルスタートアシストのほか、ウェットコンディションで役立つプライミング/ドライブレーキ機能を備えています。

デザイン

GT 63 S E PERFORMANCE F1 Edition の外装色にはソリッドのアルペングレー、インテリアにはレッドステッチを施したブラックカラーを組み合わせました。エクステリアで目を引くのはアジャスタブルリアウイングスポイラーとレッドリムフリンジ付きのマットブラックペイント 21 インチ AMG5 ツインスポークアルミホイールです。また、車両の両サイドには F1 Edition のデカールが施されています。

インテリアには、F1 Edition 専用となる AMG カーボンファイバーインテリアトリムや F1 ロゴが入ったフロアマット、レッドシートベルト、イルミネーテッドステップカバー(レッドアクセント)などを採用し、F1 の世界観を感じて頂ける仕様となっています。

その他の装備

MBUX インテリア・アシスタントを標準装備

手のジェスチャーで様々な操作が可能になりました。例えば、V サインによって、お気に入りの機能のショートカットをメディアディスプレイに表示したり、ルームミラーの下で手を上下させることでリーディングライト、助手席シート上方に手を伸ばしてサーチライトのオン・オフや利便性が向上しています。

ホーム画面、メディア、ナビゲーション、シート調節では選択項目をハイライトまたは拡大表示することで、より操作しやすくなるよう配慮されています。また、360°カメラシステムの映像を車両の前後左右、俯瞰などを任意に切り替えることができるので、駐車の際などに大変便利です。

最新世代のAMGパフォーマンスステアリングホイールを標準装備

ドライビングに集中しながら各種メニュー操作が可能なAMGドライブコントロールスイッチを備えたAMGパフォーマンスステアリングを標準装備しました。

メーカー希望小売価格(消費税込み)は以下の通りです。

モデル	ステアリング	エンジン	メーカー希望小売価格*2 ()内は消費税抜き車両本体価格
メルセデス AMG GT 63 S E PERFORMANCE F1 Edition	左	4.0L、V8 直噴 ツインターボ +プラグイン ハイブリッド	¥32,700,000 (¥29,727,273)

*2: 上記のメーカー希望小売価格は、付属品価格、税金(消費税を除く)、保険料、登録に伴う諸費用を含まない車両本体価格です。また、「自動車リサイクル法」に基づく、リサイクル料金が別途必要となります。メーカー希望小売価格は参考価格です。販売店が価格は独自に定めておりますので、詳しくは各販売店にお問い合わせ下さい。

なお、GT 63 S E PERFORMANCE F1 Editionにも、新車購入から3年間、一般保証修理/定期メンテナンス(点検整備の作業工賃・交換部品)/24時間ツーリングサポート/地図データ更新が無償で提供される走行距離無制限の保証プログラム「メルセデス・ケア」が適用されます。新車登録日から6年間または総走行距離10万km到達時のいずれかまで高電圧バッテリーを無償で交換または修理する特別保証をご用意しております。

さらに、メルセデス・ケア終了後も引き続き2年間、一般保証修理や24時間ツーリングサポートをご利用いただける有償のサービスプログラム「保証プラス」をご用意しています。

メルセデス AMG GT 63 S E PERFORMANCE F1 Edition 仮予約受付 WEB サイト

<https://www.mercedes-benz.co.jp/passengercars/mercedes-benz-cars/models/amg-gt/amg-gt-4-door-coupe/explore/gt63-s-e-p-f1.module.html>

2023年1月11日(水)11:00から1月25日(水)18:00まで受付。



メルセデスAMG GT 63 S E PERFORMANCE F1 Edition

メルセデスAMGについて

AMG^{エー・エム・ジー}は、「モータースポーツこそが技術力の優秀性を何よりも端的に示す」という確固たる信念に基づき、1967年に誕生しました。その名は、創立者のハンス・ヴェルナー・アウフレヒト(Aufrecht)、パートナーのエバハルト・メルヒャー(Melcher)、アウフレヒトの出生地グローザスパツハ(Grossaspach)の頭文字から取られています。当初はメルセデス・ベンツの市販車をベースに独自の改良を施したレーシングマシンを製造し、数々のレースにおいて輝かしい成績をおさめてきました。1988年からはメルセデス・ベンツと本格的なパートナーシップを組み、中核となるモータースポーツ活動を通して培ったレーシングカーテクノロジーとメルセデス・ベンツの最先端技術を結集し、メルセデスのトップパフォーマンスモデルの開発とエンジンの生産を行っています。創業55周年を迎える2023年現在、メルセデスAMGの全世界のポートフォリオは50モデル以上で構成されています。また、パワートレインは4気筒、6気筒、8気筒のガソリンエンジンはもちろんのこと、さらにF1™の技術を採用した高性能プラグインハイブリッド「E PERFORMANCE」、そして電気自動車と、お客様の幅広いニーズに応えるラインアップを揃えています。

「メルセデスAMG GT 4ドアクーペ」の特長

メルセデス AMG GT 4ドアクーペのシャーシの開発には、モータースポーツの分析およびシミュレーションの手法が採用され、最大のパフォーマンスを確保すべく、適切な箇所に補強を実施しました。フロントセクションは非常に剛性が高く、正確なステアリングとフィードバックをドライバーにもたらしめます。中央部からリアエンドは、ガセットやクロスメンバーを追加、ラゲッジフロア部に CFRP を採用するなど軽量、高剛性を実現しています。

「メルセデス・AMG GT 4ドアクーペ」は、快適な後席環境や積載性を確保する一方、メルセデス・ベンツの「Sensual Purity(官能的純粋)」というデザインの基本思想に

のっつて、官能的なスタイリングに仕上げられています。また、AMG GT ファミリーであることが、はっきり分かるようなスポーティさを兼ね備えています。

フロントは、伝統的なクーペの構造的特徴であるロングボンネットと二つのパワードームが採用されています。さらに、上下方向に細く、幅の広いデザインのマルチビームLEDヘッドライト、AMGのトップモデルが纏う、縦にルーバーが入ったAMG専用ラジエーターグリル、逆スラントした「シャークノーズ」、流麗な「A ウイング」デザインなど、AMG GT ファミリーならではのパフォーマンスを感じさせるデザイン要素をふんだんに盛り込んでいます。

リアにも上下方向に細いLEDリアコンビネーションランプやリトラクタブルリアスポイラーなどAMG GTファミリーの特徴が表現されています。角形のデュアルエグゾーストエンドは「GT 63」専用です。（「GT 43」と「GT 53」には円形のデュアルエグゾーストエンド）

サイドはサッシュレスウィンドウと後方に向けて大きく傾斜した上下方向に細いウインドスクリーンを採用し、4ドアの利便性を持ちながら、クーペの流麗なルーフラインも保っています。ワイドなリアのショルダ一部は「メルセデス AMG GT 4 ドアクーペ」のアスレチックでスポーティな志向を表現するとともに、リアトレッドの拡大に寄与します。

「メルセデス AMG GT 4 ドアクーペ」のインテリアの大きな特徴は乗車定員が5人であること、そして高い積載性です。リアシートは大人であっても十分な空間が確保されています。

インテリアデザインは高級感がありながら、パフォーマンスの高さも感じさせるデザインとなっています。トリムの面積が広く、流れるようなデザインでワイドさを強調するダッシュボードやタービンエンジンを想起させるエアアウトレット、2つの高精細12.3インチワイドディスプレイを一枚のガラスカバーで融合したコックピットディスプレイなど、基本デザインを最新のメルセデス・ベンツモデルと共有しています。さらに、ステアリングホイールから手を離さずに走行モードを変更することができる「AMGドライブコントロールスイッチ」が装備されます。右側のスポークの根元に位置するボタンはAMG DYNAMIC SELECTの走行モードなどを選択することができ、左側はエグゾースト、サスペンション、マニュアルモード、ESP[®]などの調整を行うことができます。